

TRG (T 細胞受容体 $\gamma$ 鎖) 遺伝子再構成《PCR 法》		P000024		
		担当部署		
TRG		病理		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		該当なし		
オーダー手順	1	サイボウズ→ファイル管理→54. 病理診断科→遺伝子解析依頼申請書→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		該当なし		
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。		
検体採取の特別なタイミング		疾患診断時		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 組織 8mm 角	容器番号 27 滅菌スピッツ管	無	500	mg
2 未染スライドガラス	容器番号 30 遺伝子検査用標本スライド容器	無	5	枚
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		室温		
検体受入不可基準		オーダーがない		
保管検体の保存期間		パラフィンブロック：半永久 * 保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡		

検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 病理診断科				
測定時間		8～11 日				
生物学的基準範囲		再構成を認めない				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		<p>T 細胞においても B 細胞と同様に分化過程において TCR 遺伝子の再構成が見られる。TCR 遺伝子は現在 <math>\alpha, \beta, \gamma, \delta</math> の 4 鎖が知られているが, TCR<math>\beta</math> 鎖遺伝子も免疫グロブリン遺伝子と同様に V, D, J の各領域遺伝子から成り, D-J 連結ついで V-DJ 連結の順に再構成が生じる。</p> <p><math>\gamma</math> 鎖遺伝子可変部は, V, J 領域遺伝子から成っていて, これらの遺伝子は T 細胞の分化, 特に胸腺内での分化の過程で遺伝子再構成を行い, <math>\gamma</math> 鎖と <math>\delta</math> 鎖遺伝子は <math>\alpha</math> 鎖と <math>\beta</math> 鎖遺伝子に先立ち再構成され, それぞれ複合体を形成し T 細胞レセプターとして発現される。TCR<math>\beta</math> 鎖遺伝子は第 7 染色体長腕(7q32 または 7q35)に, TCR<math>\alpha</math> 鎖遺伝子は第 14 染色体長腕(14q11.2)に, TCR<math>\gamma</math> 鎖遺伝子は第 7 染色体短腕(7q15)に, TCR<math>\delta</math> 鎖遺伝子は第 14 染色体長腕(14q11.2)に座位し, TCR 遺伝子も免疫グロブリンと同様に TCR<math>\delta</math> 鎖→TCR<math>\gamma</math> 鎖→TCR<math>\beta</math> 鎖→TCR<math>\alpha</math> 鎖のハイアラキーが存在すると考えられるため, TCR 遺伝子の再構成パターンを調べることにより, T 細胞の分化過程の一部を知ることができる。またリンパ球表面マーカーなどの表現型による分類が困難な場合に有用な検査である。</p>				